授業科目	臨床検査総合演習 II	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	60 回	時間数	120 時間
授業目的	医療全般の公衆衛生について学び理解する。心電図、脳波、呼吸器、超音波検査の臨床所見について学び、臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	公衆衛生学、生理学的検査の知識を確かにし、臨床現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「解剖学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「生理機能検査学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「公衆衛生学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%の評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	2	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	3	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	4	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	5	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	6	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	7	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	8	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	9	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	10	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	11	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	12	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	13	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	14	公衆衛生学	公衆衛生の基礎、疫学分類と調査方法、人口動態など（髙橋）
	15	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際（山本）
	16	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際（山本）
	17	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際（山本）
	18	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際

			（山本）
	19	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （奥原）
	20	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （奥原）
	21	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （奥原）
	22	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （奥原）
	23	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	24	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	25	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	26	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	27	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	28	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	29	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	30	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （江畑）
	31	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	32	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	33	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	34	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	35	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （斎藤）
	36	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （斎藤）
	37	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （斎藤）
	38	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （斎藤）
	39	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	40	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	41	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	42	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	43	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （林）
	44	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	45	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	46	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	47	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	48	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	49	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	50	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）

	51	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	52	臨床生理学	心電図、呼吸、神経の検査の実際 （早坂）
	53	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （早乙女）
	54	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （早乙女）
	55	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （早乙女）
	56	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （早乙女）
	57	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （鮫川）
	58	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （鮫川）
	59	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （鮫川）
	60	画像検査学	基礎、心臓、腹部、血管検査の実際 （鮫川）

授業科目	臨床検査総合演習Ⅱ	担当教員 実務経験	鮫川正美 有：■　　無：□	病院検査部生理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査総合演習Ⅳ	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	60 回	時間数	120 時間
授業目的	独自に研究内容を考えることを学ぶ。目的、方法、結果、考察などの項目をまとめ上げることを学ぶ。プレゼンテーションに必要な技術を学ぶ。				
到達目標	研究の成果を論文としてまとめ、「卒業研究」として発表できる。				
テキスト・参考図書等	・各自で資料を作成する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	研究内容 60%、発表内容 40%を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	①クールごとに進行状況を確認する。②質問等があった場合はその都度、担当教員が回答にあたる。 ③自分が学内、学外で実習して学んだことで一番興味があったことを題材にすること。④内容を難しいものにせず、完成させることを第 1 に考えること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
	2	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
	3	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
	4	卒業研究	卒業研究クール 1
	5	卒業研究	卒業研究クール 1
	6	卒業研究	卒業研究クール 1
	7	卒業研究	卒業研究クール 1
	8	卒業研究	卒業研究クール 1
	9	卒業研究	卒業研究クール 1
	10	卒業研究	卒業研究クール 1
	11	卒業研究	卒業研究クール 1
	12	卒業研究	卒業研究クール 1
	13	卒業研究	卒業研究クール 1
	14	卒業研究	卒業研究クール 1
	15	卒業研究	進行状況確認
	16	卒業研究	進行状況確認
	17	卒業研究	卒業研究クール 2
	18	卒業研究	卒業研究クール 2
	19	卒業研究	卒業研究クール 2
	20	卒業研究	卒業研究クール 2
	21	卒業研究	卒業研究クール 2
	22	卒業研究	卒業研究クール 2

	23	卒業研究	卒業研究クール 2
	24	卒業研究	卒業研究クール 2
	25	卒業研究	進行状況確認
	26	卒業研究	進行状況確認
	27	卒業研究	卒業研究クール 3
	28	卒業研究	卒業研究クール 3
	29	卒業研究	卒業研究クール 3
	30	卒業研究	卒業研究クール 3
	31	卒業研究	卒業研究クール 3
	32	卒業研究	卒業研究クール 3
	33	卒業研究	卒業研究クール 3
	34	卒業研究	卒業研究クール 3
	35	卒業研究	進行状況確認
	36	卒業研究	進行状況確認
	37	卒業研究	卒業研究クール 4
	38	卒業研究	卒業研究クール 4
	39	卒業研究	卒業研究クール 4
	40	卒業研究	卒業研究クール 4
	41	卒業研究	卒業研究クール 4
	42	卒業研究	卒業研究クール 4
	43	卒業研究	卒業研究クール 4
	44	卒業研究	卒業研究クール 4
	45	卒業研究	進行状況確認
	46	卒業研究	進行状況確認
	47	卒業研究	卒業研究発表練習
	48	卒業研究	卒業研究発表練習
	49	卒業研究	卒業研究発表練習
	50	卒業研究	卒業研究発表練習
	51	卒業研究	卒業研究発表練習
	52	卒業研究	卒業研究発表練習
	53	卒業研究	卒業研究発表練習
	54	卒業研究	卒業研究発表練習
	55	卒業研究	卒業研究発表練習
	56	卒業研究	卒業研究発表練習
	57	卒業研究	卒業研究発表
	58	卒業研究	卒業研究発表
	59	卒業研究	卒業研究発表
	60	卒業研究	卒業研究発表

授業科目	臨床検査総合演習IV	担当教員 実務経験	坂爪恵子 有：■　　無：□	病院検査部病理業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	実習準備	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨地実習に必要な基本操作ができる。被検者への接遇マナーを学ぶ。				
到達目標	臨床検査技師として基本的な操作ができる。被検者に対しマナーを守り、対応できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」(医歯薬出版　・臨床検査学講座「生理機能検査学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「病理学/病理検査学」(医歯薬出版)　・臨床検査学講座「血液検査学」(医歯薬出版) ・臨床検査学講座「臨床化学検査学」(医歯薬出版)　・臨床検査学講座「臨床微生物学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	実技試験の得点を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①座学で基本的な知識の復習。②実際に操作を行う。 ③被検者をを相手していると想定して実習を行う。④臨地実習に行く前に、自分の得手不得手を確認する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	免疫検査①	・測定原理、測定法の確認
	2	免疫検査②	・測定原理、測定法の確認
	3	生理機能検査①	・心電図
	4	生理機能検査②	・心電図
	5	病理検査①	・標本作成過程の確認
	6	病理検査②	・標本作成過程の確認
	7	血液検査	・血液算定、凝固検査の復習
	8	輸血検査①	・血液型判定等
	9	輸血検査②	・血液型判定等
	10	生化学検査	・基本的な測定原理の確認
	11	一般検査①	・基本的な測定原理の確認
	12	一般検査②	・基本的な測定原理の確認
	13	微生物学検査①	・グラム染色、同定手順の確認 (紙谷)
	14	微生物学検査②	・グラム染色、同定手順の確認 (紙谷)
	15	微生物学検査③	・グラム染色、同定手順の確認 (紙谷)

授業科目	実習準備	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨地実習	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	270 回	時間数	540 時間
授業目的	臨床検査技師としての基本的な実践技術を学ぶ。医療施設における検査部門の運営に関する知識を学ぶ。被検者に適切な対応を学ぶ。医療チームの一員としての責任を学ぶ。				
到達目標	1 年～2 年時に学んだことを実践、体験することにより知識、技術を確かなものにする。実際に患者(被検者)と接することにより、臨床検査技師の役割や責任を自覚する。				
テキスト・参考図書等	臨地実習ノート　第 3 版（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨地実習ノートに付随している評価に基づいて行う
	レポート	80	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①実習指導者の指示に常に従うこと。 ②医療専門職、チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任をしっかり学ぶこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	一般検査分野	尿一般検査、尿沈渣鏡検、髄液・穿刺液、糞便検査
	2	血液検査分野	患者対応、採血見学、血液像、血液一般、線溶・凝固
	3	病態化学分析分野	精度管理、データ管理、自動分析装置の原理と応用、緊急検査
	4	免疫検査分野	凝集反応、梅毒血清反応、遺伝子検査、輸血
	5	微生物検査分野	滅菌・消毒・無菌操作の習熟、一般細菌検査、結核菌検査、真菌検査
	6	生理機能分野	心電図検査、脳波検査、超音波検査
	7	病理検査分野	組織診、細胞診、電子顕微鏡、（病理解剖見学）

授業科目	臨地実習	担当教員 実務経験	星直樹、実習指導者 有：■　　無：□	大学病院検査部、病院検査部、検査センター
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査学	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	一般検査の現場で遭遇する症例について学び臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	一般検査学の知識を確かなものにして、医療現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「一般検査学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
2	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
3	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
4	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
5	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
6	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
7	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
8	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
9	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
10	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
11	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
12	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
13	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
14	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)
15	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 (星)

授業科目	臨床検査学	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨地実習	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	158 回	時間数	315 時間
授業目的	臨床検査技師としての基本的な実践技術を学ぶ。医療施設における検査部門の運営に関する知識を学ぶ。被検者に適切な対応を学ぶ。医療チームの一員としての責任を学ぶ。				
到達目標	1 年～2 年時に学んだことを実践、体験することにより知識、技術を確かなものにする。実際に患者さんと接することにより、臨床検査技師の役割や責任を自覚する。				
テキスト・参考図書等	・臨地実習ノート　第 3 版（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①レポートの点数を科目成績全体の 80%とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	80	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	
	①実習指導者の指示に常に従うこと。 ②医療専門職、チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任をしっかり学ぶこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	一般検査分野	尿一般検査、尿沈渣鏡検、髄液・穿刺液、糞便検査
	2	血液検査分野	患者対応、採血見学、血液像、血液一般、線溶・凝固
	3	病態化学分析分野	精度管理、データ管理、自動分析装置の原理と応用、緊急検査
	4	免疫検査分野	凝集反応、梅毒血清反応、遺伝子検査、輸血
	5	微生物検査分野	滅菌・消毒・無菌操作の習熟、一般細菌検査、結核菌検査、真菌検査
	6	生理機能分野	心電図検査、脳波検査、超音波検査
	7	病理検査分野	組織診、細胞診、電子顕微鏡、（病理解剖見学）

授業科目	臨地実習	担当教員 実務経験	星直樹、実習指導者 有：■　　無：□	大学病院検査部、病院検査部、検査センター
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床生理学	担当教員	石岡　聡子		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	心電図、脳波、呼吸器、超音波検査の臨床所見について学び、臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	生理学的検査の知識を確かにし、臨床現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「生理学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「解剖学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「生理機能検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（江畑）
2	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（江畑）
3	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（奥原）
4	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（奥原）
5	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（早坂）
6	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（早坂）
7	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（早乙女）
8	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（早乙女）
9	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（斎藤）
10	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（斎藤）
11	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（林）
12	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（林）
13	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（山本）
14	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（星）
15	臨床生理学	心電図、呼吸、神経、エコーの検査の実際（鮫川）

授業科目	臨床生理学	担当教員 実務経験	鮫川　正美 有：■　　無：□	病院検査部生理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床微生物学	担当教員	オリベラ　恵		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	微生物学検査の臨床現場で必要とされる知識を学び、実践能力を身につける。				
到達目標	微生物学の知識を確かなものにして、医療現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「臨床微生物学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	2	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	3	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	4	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	5	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	6	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	7	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	8	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	9	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	10	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	11	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	12	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	13	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	14	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）
	15	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床（オリベラ）

授業科目	臨床微生物学	担当教員 実務経験	川村　隆志 有：■　　無：□	検査センター生化学検査に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査総合演習Ⅰ	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	60 回	時間数	120 時間
授業目的	病理標本作成過程、染色方法の原理、結果について臨床の現場で必要とされる実践能力を身につける。血液学検査（凝固・線溶、形態検査）について臨床の現場で必要とされる実践能力を身につける。免疫学的検査、輸血検査で臨床の現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	病理学、血液学、免疫学の知識を確かにし、臨床の現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「病理検査学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%を評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	2	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	3	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	4	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	5	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	6	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	7	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	8	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	9	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	10	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	11	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	12	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	13	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	14	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	15	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	16	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	17	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）
	18	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際（小林）

	19	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 （小林）
	20	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 （小林）
	21	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	22	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	23	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	24	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	25	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	26	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	27	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	28	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	29	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	30	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	31	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	32	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	33	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	34	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	35	免疫学	免疫学的検査、輸血検査の実際 （髙橋）
	36	免疫学	免疫学的検査と臨床 （髙橋）
	37	免疫学	免疫学的検査と臨床 （髙橋）
	38	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	39	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	40	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	41	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	42	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	43	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	44	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	45	免疫学	免疫学的検査と臨床 （石岡）
	46	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	47	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	48	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	49	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	50	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	51	臨床免疫・血液	血液検査の臨床

			（髙橋）
	52	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	53	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	54	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	55	臨床免疫・血液	血液検査の臨床 （髙橋）
	56	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （佐藤）
	57	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （佐藤）
	58	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （佐藤）
	59	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （池上）
	60	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （池上）

授業科目	臨床検査総合演習Ⅰ	担当教員 実務経験	坂爪恵子 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床輸血・移植検査学	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	輸血・移植検査学について学ぶ。				
到達目標	輸血・移植検査学の知識を確かにし、臨床の現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	輸血・移植検査学	ABO 血液型の構造
	2	輸血・移植検査学	ABO 血液型の検査
	3	輸血・移植検査学	Rh 血液型の構造
	4	輸血・移植検査学	Rh 血液型の検査
	5	輸血・移植検査学	その他の血液型
	6	輸血・移植検査学	臨床的意義のある抗体
	7	輸血・移植検査学	不規則抗体検査
	8	輸血・移植検査学	交差適合試験
	9	輸血・移植検査学	母子間不適合妊娠
	10	輸血・移植検査学	自己血輸血
	11	輸血・移植検査学	輸血副作用①
	12	輸血・移植検査学	輸血副作用②
	13	輸血・移植検査学	移植検査
	14	輸血・移植検査学	骨髄移植
	15	輸血・移植検査学	まとめ

授業科目	臨床輸血・移植検査学	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部免細菌査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床病理学	担当教員	小林　克己		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	病理標本作成過程、染色方法の原理、結果について臨床の現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	病理学の知識を確かにし、臨床の現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「病理検査学」(医歯薬出版)				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
2	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
3	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
4	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
5	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
6	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
7	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
8	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
9	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
10	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
11	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
12	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
13	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
14	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)
15	病理学	標本作成、染色、組織診、細胞診の実際 (小林)

授業科目	臨床病理学	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査総合演習III	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	60 回	時間数	120 時間
授業目的	臨床化学検査の測定法と検査結果の判読について学び、臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。微生物学検査の臨床現場で必要とされる知識を学び、実践能力を身につける。一般検査の現場で遭遇する症例について学び臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	臨床化学、微生物学、一般検査学の知識を確かなものにして、医療現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「臨床化学検査学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「臨床微生物学」（医歯薬出版） ・臨床検査学講座「一般検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	①最高点を 100 点換算した得点を科目成績全体 80%を評価点とする。 ②プリント提出などを平常点として科目成績全体 20%の評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	2	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	3	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	4	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	5	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	6	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	7	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	8	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	9	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	10	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	11	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	12	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	13	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	14	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	15	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	16	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	17	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	18	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）

	19	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川口）
	20	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川口）
	21	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川村）
	22	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川村）
	23	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川村）
	24	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床 （川村）
	25	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	26	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	27	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	28	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	29	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	30	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	31	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	32	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	33	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	34	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	35	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	36	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	37	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	38	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	39	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	40	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	41	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	42	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	43	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	44	微生物学検査	細菌総論、検査、同定、薬剤感受性試験と臨床 （オリベラ）
	45	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	46	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	47	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	48	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	49	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	50	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	51	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床

			（星）
	52	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	53	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	54	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	55	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	56	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	57	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	58	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	59	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）
	60	一般検査学	尿、糞便、髄液検査と臨床 （星）

授業科目	臨床検査総合演習III	担当教員 実務経験	川村隆志 有：■　　無：□	検査センター生化学検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床免疫学	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	免疫に関する知識を国家試験レベルまで学ぶ。				
到達目標	免疫学で使用する専門用語を説明できる。検査法の原理を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・臨床検査学講座「免疫検査学」（医歯薬出版） ・必要に応じてプリント				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。②予習・復習を欠かさず、授業に臨むこと。 ③実習につながる授業内容であることを常に念頭に入れて、授業を受けること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	免疫系の構成要素	自然免疫と獲得免疫について学ぶ
	2	液性免疫	液性免疫の特性、関連する疾患について学ぶ。
	3	細胞性免疫	細胞性免疫の特性、関連する疾患につて学ぶ。
	4	補体	補体経路、補体に関連した疾患について学ぶ。
	5	能動免疫、受動免疫と免疫寛容	能動免疫と受動免疫、免疫寛容のメカニズムについて学ぶ。
	6	免疫学的検査の原理	抗原の種類、抗原抗体反応、モノクローナル抗体やポリクローナル抗体について学ぶ。
	7	試験管内反応原理の臨床応用	沈降反応、凝集反応、溶解反応、中和反応、非標識抗体免疫測定法、標識抗体免疫測定法、電気泳動法について学ぶ。
	8	感染症検査 1	溶連菌感染症検査、梅毒検査、その他の細菌検査について学ぶ。
	9	感染症検査 2	肝炎ウイルス検査について学ぶ。
	10	感染症検査 3	レトロウイルス（HIV,HTLV-1）検査、その他ウイルス感染症検査について学ぶ。
	11	自己免疫疾患検査	関節リウマチ検査や抗核抗体検査などの自己抗体検査について学ぶ。
	12	免疫不全関連検査	リンパ球サブセット検査、フローサイトメトリー、IGRA 検査、マイトジェン刺激試験等について学ぶ。
	13	腫瘍マーカー、炎症マーカー	腫瘍マーカーや炎症マーカー（CRP 等）、炎症性サイトカイン、抗炎症性サイトカインについて学ぶ。
	14	アレルギー検査	RIST,RAST、ヒスタミン遊離試験、パッチテスト等について学ぶ。
	15	M 蛋白血症検査	多発性骨髄腫、原発性マクログロブリン血症等の検査（免疫電気泳動など）について学ぶ。

授業科目	臨床免疫学	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床生化学	担当教員	川口　克彦		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	臨床化学検査の測定法と検査結果の判読について学び、臨床現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	臨床化学の知識を確かなものにして、医療現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「臨床化学検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床の現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	2	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	3	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	4	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	5	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	6	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	7	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	8	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川口）
	9	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	10	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	11	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	12	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	13	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	14	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）
	15	臨床化学	電解質、糖、酵素、脂質、蛋白質の代謝、測定法と臨床（川村）

授業科目	臨床生化学	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部病理検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査総合演習	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	60 回	時間数	120 時間
授業目的	独自に研究内容を考えることを学ぶ。目的、方法、結果、考察などの項目をまとめ上げることを学ぶ。プレゼンテーションに必要な技術を学ぶ。				
到達目標	研究の成果を論文としてまとめ、「卒業研究」として発表できる。				
テキスト・参考図書等	各自で資料を作成する。				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	研究内容 60%、発表内容 40%を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	100	

履修上の留意事項	①クールごとに進行状況を確認する。②質問等があった場合はその都度、担当教員が回答にあたる。 ③自分が学内、学外で実習して学んだことで一番興味があったことを題材にすること。④内容を難しいものにせず、完成させることを第 1 に考えること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
2	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
3	卒業研究	卒業研究のあり方　テーマの選択
4	卒業研究	卒業研究クール 1
5	卒業研究	卒業研究クール 1
6	卒業研究	卒業研究クール 1
7	卒業研究	卒業研究クール 1
8	卒業研究	卒業研究クール 1
9	卒業研究	卒業研究クール 1
10	卒業研究	卒業研究クール 1
11	卒業研究	卒業研究クール 1
12	卒業研究	卒業研究クール 1
13	卒業研究	卒業研究クール 1
14	卒業研究	卒業研究クール 1
15	卒業研究	進行状況確認
16	卒業研究	進行状況確認
17	卒業研究	卒業研究クール 2
18	卒業研究	卒業研究クール 2
19	卒業研究	卒業研究クール 2
20	卒業研究	卒業研究クール 2
21	卒業研究	卒業研究クール 2
22	卒業研究	卒業研究クール 2

	23	卒業研究	卒業研究クール 2
	24	卒業研究	卒業研究クール 2
	25	卒業研究	進行状況確認
	26	卒業研究	進行状況確認
	27	卒業研究	卒業研究クール 3
	28	卒業研究	卒業研究クール 3
	29	卒業研究	卒業研究クール 3
	30	卒業研究	卒業研究クール 3
	31	卒業研究	卒業研究クール 3
	32	卒業研究	卒業研究クール 3
	33	卒業研究	卒業研究クール 3
	34	卒業研究	卒業研究クール 3
	35	卒業研究	進行状況確認
	36	卒業研究	進行状況確認
	37	卒業研究	卒業研究クール 4
	38	卒業研究	卒業研究クール 4
	39	卒業研究	卒業研究クール 4
	40	卒業研究	卒業研究クール 4
	41	卒業研究	卒業研究クール 4
	42	卒業研究	卒業研究クール 4
	43	卒業研究	卒業研究クール 4
	44	卒業研究	卒業研究クール 4
	45	卒業研究	進行状況確認
	46	卒業研究	進行状況確認
	47	卒業研究	卒業研究発表練習
	48	卒業研究	卒業研究発表練習
	49	卒業研究	卒業研究発表練習
	50	卒業研究	卒業研究発表練習
	51	卒業研究	卒業研究発表練習
	52	卒業研究	卒業研究発表練習
	53	卒業研究	卒業研究発表練習
	54	卒業研究	卒業研究発表練習
	55	卒業研究	卒業研究発表練習
	56	卒業研究	卒業研究発表練習
	57	卒業研究	卒業研究発表
	58	卒業研究	卒業研究発表
	59	卒業研究	卒業研究発表
	60	卒業研究	卒業研究発表

授業科目	臨床検査総合演習	担当教員 実務経験	坂爪　恵子 有：■　　無：□	病院検査部病理業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査総合	担当教員	髙橋　智哉		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公衆衛生学・医用工学について学ぶ。				
到達目標	公衆衛生学・医用工学の知識を確かにし、臨床の現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「公衆衛生学」「医用工学概論」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。
②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	公衆衛生学	衛生統計
2	公衆衛生学	疫学
3	公衆衛生学	母子・学校・成人保険
4	公衆衛生学	高齢者・精神・その他の保健
5	公衆衛生学	環境と健康
6	公衆衛生学	栄養と食品衛生
7	公衆衛生学	産業衛生と保健
8	公衆衛生学	社会保健制度
9	医用工学概論	臨床検査と生体物性
10	輸血・移植検査学	電気・電子工学の基礎
11	医用工学概論	医用電子回路
12	医用工学概論	生体情報の収集
13	医用工学概論	電気安全対策
14	医用工学概論	回路計算問題
15	医用工学概論	まとめ

授業科目	臨床検査総合	担当教員 実務経験	紙谷　宜行 有：■　　無：□	病院検査部免細菌査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床血液学	担当教員	伊勢　智子		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	血液学検査（凝固・線溶、形態検査）について臨床の現場で必要とされる実践能力を身につける。				
到達目標	血液学の知識を確かにし、臨床の現場で実践できる。				
テキスト・参考図書等	臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	最高点を 100 点換算した得点を評価点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①教科書やプリント、板書を中心に講義形式の授業を行う。 ②試験は履修主題に応じた内容で出題され、それぞれの主題ごとに評価し、臨床現場での実践能力を問う。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
2	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
3	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
4	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
5	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
6	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
7	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
8	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
9	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
10	臨床血液	血液検査の臨床 （伊勢）
11	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （伊勢）
12	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （伊勢）
13	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （伊勢）
14	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （伊勢）
15	血液検査	凝固・線溶検査、形態検査の実際 （伊勢）

授業科目	臨床血液学	担当教員 実務経験	池上　淳子 有：■　　無：□	病院検査部血液検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		